

ボランティア インタビュー



後列左から二人目が渡部さん
後列右から二人目が三矢さん

インタビュー形式だと堅苦しいので座談会の様な感じでお話を伺いました。

今回は、月に1回ずつ「生花」と「レクリエーション」のボランティアに来てくださっている「駒場住区住民会議福祉部」の三矢律子さんと渡部桂子さんにお話を頂きました。

Q いつからグループホームこまばに関わってくださっているのですか？

グループホームこまばが開所した時からですから、もう12年になります。

当時、ホームができることになり、「地域に根ざしていこう」という愛隣会の気持ちが見えて嬉しく思いました。

それで、何か力になれる事と思いボランティアをさせていただきました。

認知症のホームに関わるようになり、当時「痴呆(ちほう)症」と呼ぶことにとっても違和感を覚えました。程無くして国から「認知症」と呼ぶことになったとの報せを受けたのですが、呼び方の問題ではなく、人を枠にはめて見て欲しくないという願いだったのですが・・・。

一般的に、ホームでご利用されている方を「〇〇様」なんて呼ぶのもおかしいと思っています。だって、地域で生活する人と人でしょ。(ご利用者さんも)お互いに気を使わない関係を求めているのではないかと思います。

Q ボランティアとして関わることで楽しいことはどのようなことですか？

この歳になるとなかなかお手本になる人がいなくて(笑)
100歳で編み物をしている方と関わらせていただくと、学ばせて頂くというか、とても元気を頂きます。

Q こまばでの活動はいかがですか

いつも、楽しく関わらせて頂いています。レクリエーションでは、子供だましにならないようにするのが難しいと感じています。

マンネリ化しないように、外部の演芸ができる人をたまには呼びたいと計画して、今回、「南京玉すだれ」の演芸ボランティアさんの企画が開催できてとても良かったです。

時にはホームに意見を言わせて頂いたこともありましたが、数年前の事なのですが、ご利用者さんのおやつの量が少なすぎるのでは、と感じていました。ご利用者さんがもっと食べたくていつまでもスプーンでお皿をカチャカチャしているのを見ると可哀想で...。それでひとこと申し上げました。

ホーム長 ありがとうございます。確かに過去には管理的な部分が強すぎた時期があったと思います。あまり沢山食べるとお腹を壊すのではないかと、カロリーオーバーになるのではないかとのお考えで必要以上に食事の管理をしていました。危険を予測し過ぎて日常の楽しみや自立を奪ってしまう結果となつては意味がありません。その反省を活かして現在は「ご利用者の生活を第一に考えよう」と取り組んでいます。

そうですね。おやつはもちろんですが、今はホームの雰囲気や穏やかでご利用者さんがのびのびしているように感じています。

自分に置き換えて考えても、この歳になったら、好きなものを食べていたいと思いますもんね。

「人間やる気」が大切。これからも、グループホームこまばで元気をもらって楽しく関わらせて頂きます。

ホーム長 ありがとうございます。これからも、どうぞよろしくお願い致します。



料理は皆で作ります



長年やってきたことは自然に体が動きます。昔、家族と餃子を包んだことを思い出しました。

草餅も食べます



餅は危険だからと食べさせないのはド素人の介護士です。プロの介護士は、生活習慣を守る・好きな物を食べてもらうようはからいます。

食後は皿拭きします



出来ることは一緒にやってもらいます。家事も生活の一部です。

自分の足で歩きます



敢えて家具を置いて伝い歩きが出来るようにしています。

趣味を楽しみます



月に一度の生花の会です。駒場住区のボランティアさんが来てくれます。

ボランティアと音楽を



毎週ハーモニカのボランティアさんがいらして、音楽を楽しんでいます。

生活習慣を大切に



生活習慣を出来る限り継続します。元、公文の先生です。

誕生日をお祝いします



誕生日当日にみんなで祝いします。

「グループホームこまば」ってどんなところ？